

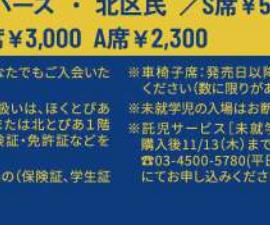
# ムジツイル・ザラス

シュトラウス

STRAUSS

あの話題の  
ブラスバンドが  
北とぴあにやってくる！

MNOZIL BRASS



# ムノツィル・プラス プロフィール

## トーマス・ガンシュ／トランペット Thomas Gansch, Trumpet

ムノツィル・プラス創立メンバーのひとり。1993年の創立時、トーマスはたったの17歳でありながら、その実力はウィーン国立歌劇場管弦楽団で演奏するほどの確かなもの。ところがトーマスはやがてジャズへとのめり込み、今ではオーストリア随一の万能トランペッターとなる。ジャズ、クラシック、そしてその間にあるすべての音楽…この男はトランペットで何でも吹きこなす。ステージ上では動きっぱなし、ムノツィル・プラスのショーのカギ、完璧なタイミングのコメディアンでもある。ムノツィル・プラスのための作曲も多く、また自らのプロジェクトも手がけ、その活動は多岐にわたる。



## ローマン・リンベルガー／トランペット Roman Rindberger, Trumpet

ローマンもまた、音楽一家の生まれ。早くから父親と二人の兄弟と共にオーストリア伝統の音楽を奏で、親しんできた。そんな民族音楽のイベントで、この家族はたびたびゲアハルトの家族と出くわすことになる。というのも、ゲアハルトが住んでいたのはごく近所の村だったから。技術的なパッセージを愛してやまないローマン。スイス製の時計のように極めて正確に精巧にこれらを処理する。しかもこれらのパッセージを論理的に解明する理論派でもある。だから、プラス音楽についての知識を得たいと思う者がいたら、迷うことなくローマンに尋ねよう。ステージ上でのローマンは、恋するラテン音楽担当。

## ゲアハルト・フュッスル／トロンボーン Gerhard Füssl, Trombone

ローマン・リンベルガー家とほとんど隣で生まれ育つ。おかげで、幼少の頃から父親と共にプラス音楽に大いに親しんで育つ。メンバー内では一番の人気者。なぜかといえば、彼がグループの会計係。彼からギャラを渡してもらえるからね。そう、ゲアハルトは最も人徳が高い素晴らしい高貴な人物、彼のことは絶対、間違いない。みんなが彼を敬い、丁重に接し、彼も我々にとっても親切(ほとんどの場合にね)。

## ヴィルフリーント・ブランドシュテッター／チューバ Wilfried Brandstötter, Tuba

ヴィルフリーントの華麗なる音楽歴はリコーダーから始まった。やがて少年合唱団に加わり、更にはヴァイオリン、トランペットへの変遷を経て、ついにチューバを手にしてから心の平安を手に入れることとなる。スピードが早い、遅いなどということはヴィルフリーントには関係ない。彼にとっての人生は、ゆったり流れれる大河のごとく。ゆえに、彼が求めるのは、コンサートホールを満たすすべての人が、彼のチューバが醸し出す、低く心地よい振動をただ味わってくれること。ヴィルフリーントにとっては、どうして多くの人がめまぐるしい高い音域のメロディに熱中するかなんて到底分からぬことなのである。



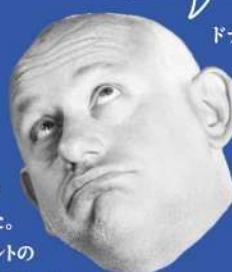
ムノツィル・プラスのミュージックビデオはこちら  
J.シュトラウス2世 オペレッタ《こうもり》序曲より



トーマス  
ゲアハルト  
ロベルト

## ロベルト・ローター／トランペット Robert Rother, Trumpet

ドナウ川沿い、トーマスと同じメルクの生まれ。道理でふたりとも幼い頃からポルカ、ワルツ、マーチに精通しているわけだ。このオーストリアの伝統音楽を熱く厳しくふたりに授けたのは著名な指揮者だったトーマスの父親。ムノツィル・プラス初期の頃からレパートリーの要である。ロベルトのお得意は、泣きのメロディ。彼が吹いている姿を想像するだけで誰もが涙ぐむほど感動的だ。あり得ないほどの美しさと、あり得ないほどのピュアートは、ロベルトのみがなせる技。トーマスとは相反し、ステージ上ではほとんど動かない。代わりに穏やかな落ち着きをステージにもたらす。



## レオンハルト・パウル／トロンボーン Leonhard Paul, Trombone

ウィーン近郊メードリング出身。ほかのメンバーと違い、家族の中で唯一初めての音楽家となる。ただし叔父は画家で、ウィーンの立派な家には必ず彼の絵が飾ってあるほどの著名な存在。最近、我々はレオンハルトのことが少し心配だ。なぜなら、彼は陰のある役にのめり込む傾向がだんだん強くなっているから。ほかのメンバーはカッコいいヒーロー役を争って演じたがるのに、レオンハルトだけはそんな争いには加わらない、進んで悪役を買って出るんだ。彼、大丈夫かな?



## ゾルタン・キス／トロンボーン Zoltán Kiss, Trombone

ひとつだけ確かなことは、ゾルタンはオーストリアの伝統音楽にはまったく馴染みなく育ったこと。なぜなら彼はハンガリー、ブダペスト生まれだから。ポーランドへの道すがら、ゾルタンはウィーンに立ち寄り、我々に出会う。以来、クロドリンガル(四カ国語で吹く)トロンボーン奏者として大活躍。メンバーのなかで流行っているゲームは、これでもか、という難しい楽譜をゾルタンに渡して、彼が吹けるかどうか試してみると、しかしゾルタンはいつも必ず吹いてしまうんだ。しかもものすごく上手に! 彼のテクニックには我々さえもたびたび呆然とさせられる。ゾルタンが吹けない楽譜を誰がいつ作曲できるか、われわれは(うちうちの)賭けをしてるんだ。



### MAP

## 北とぴあ

